

「未来高岡」ステップアップトーク（立野地区）会議記録 <要旨>

- 1、日 時 平成 28 年 11 月 26 日（土） 午後 3 時から 4 時
- 2、場 所 立野公民館
- 3、出席者 市民 31 名（うち女性 7 名）
高岡市 市長、経営企画部次長、広報統計課長
- 4、会議次第
 - (1) 高岡市総合計画基本構想の紹介
 - (2) 参加者との意見交換

.....

(1) 高岡市総合計画基本構想の紹介

(2) 参加者との意見交換

参加者

- ・ボールパーク高岡が、県西部全体でも利用しやすいように、能越自動車道福岡パーキングにスマートインターを設置し、そこからボールパーク高岡までの道路整備を行ってほしい。

市長

- ・福岡パーキングのインターチェンジの設置については、福岡料金所における料金の徴収方法のあり方が課題となっており、これまで県で、料金所の設置と無料開放の 2 案が検討されてきたが、現在その中間の案が検討されているところである。料金所における今後の方針と関連して、インターチェンジ設置に向けた検討が十分現実味を帯びてきており、県でも前向きに検討されていることから、今後も協力しながら進めていきたい。

参加者

- ・あいの風とやま鉄道の西高岡駅は、上りホームへ移動するのに急な階段を上がる必要があり、高齢者や子連れの親子にとっては利用しづらく危険である。あいの風とやま鉄道株式会社に働きかけてエレベーターを設置してほしい。

市長

- ・エレベーターの設置の助成には、駅の利用人数の基準があるため、西高岡駅のボールパーク高岡側の整備など、駅周辺における全体的な状況を見据えながら検討していきたい。また、あいの風とやま鉄道株式会社には今後とも話をしていきたい。

参加者

- ・立野地区周辺には大きな病院がなく、総合病院に行くとなると、小矢部市や市内の戸出地区、高岡市中心部まで行かなければならないため時間がかかる。福岡町と合併したことで高岡市の西部地区が広がったので、「高岡西部総合病院」のようなものを作れないか。

市長

- ・救急医療については、庄川以西の地域の救急車は高岡消防署が担当しており、近くの救急車をすぐに向かわせる体制となっている。また、県がドクターヘリを運行しており、救急患者でもすぐに病院に運び込める体制が整っている。現在の高岡医療圏では大きい病院が4つあるが、急性期医療の病床数は国の基準から言えばまだ多く、さらに減らす流れである。今後療養期医療にシフトすると思うが、病院の適正配置や医療について市民の皆様と考えていきたい。

参加者

- ・ボールパーク高岡の駐車場が不足していることから、大きなイベントの際には近くの農道は縦列駐車の手一杯となる。農繁期には、農作業に支障が生じかねないので早急に対応してほしい。

市長

- ・現在、ボールパーク高岡の駐車場と能越自動車道の高架下の駐車スペースを利用しているが、それ以外にも近隣の迷惑とならないよう西高岡駅の駐車場を利用したり、別の場所に駐車場を用意し、シャトルバスを利用してボールパーク高岡まで来場できるようにしていきたい。

参加者

- ・五位中校下での小学校の統廃合の後、現在の千鳥丘小学校の校舎はどうなるのか。将来、千鳥丘小学校のグラウンドをボールパーク高岡の駐車場として利用できるのではないか。

市長

- ・小学校の統廃合については地元と協議し話を進めていくという段階である。グラウンドを駐車場として利用するというアイデアについても、地元と話をしていきたい。